

FADO

43

Julho 2004

月田秀子ファド倶楽部

TSUQUIDA HIDEKO FADO CLUBE JORNAL

月田秀子の昨日、今日、明日…

ファドを歌い始めていつのまにか20年以上の歳月が流れた。現地ポルトガルの若手のシンガー達が続々来日するシーンは、今までにない日本でのファドの盛り上がり象徴している。20年前、アマリア・ロドリゲスが健在だった頃、リスボンのファド酒場で、彼女のレパートリーを歌おうとしても、伴奏できるギタリストは稀有だった。アマリアのファドを十八番にするような大それたファディスタは、多分現地ポルトガルではいなかっただろう。しかも、国民的歌手としての地位は築いたものの、自分達のために、小さなファドのお店で歌うことのなかったアマリア自身に対する、ポルトガルの大衆の風当たりのきつさが、当時かなりあったことも、事実だ。

リスボンの裏町で生まれ、歌い継がれてきたファドは、今、バックボーンだったリスボンの街角、アルファマ、モラリア、ピカ、マドラゴアを離れ、世界中の大きな舞台へと踊り出ようとしている。

6月17日、東京で日本ファド愛好クラブ主催による「ファドフェスタ2004」が開催された。日本における初めてのファドフェスタの幕がきっておとされた。正直言って、そのようなコンサートに参加することためらいを感じていたのだが、プログラムが進むにしたがって、「これはこれでいいのだ」と自らに言い聞かせている自分がいた。コンサートのトリを務めることになっていたのだが、最後の曲の前に、いつのまにかこんなことを私はしゃべっていた。「このような会が催されることは、20年前には思いもよらなかったことです。このような機会を与えてくださったファド愛好クラブの皆様は御礼を言いたく思います。今日の出演者は、皆、ファドがたまらなく好きなのです。そして、それぞれの想いで、そ

れぞれの場所でファドを歌っています。今日聞いてくださった皆様の一人一人の心にも、ファドが芽生え、育てゆくならば、何よりも嬉しいことと思います。本日は本当にありがとうございました。」口をついてでてきたそんな言葉に私自身、びっくりしたほどだった。そう言うことによって、妙に心が軽くなっている自分に気がついた。流れの中に漂う自分の姿を見たような気がした。

会場では、10年ぶりでもリオネットの湯浅隆・吉田剛士と再会した。かつては、共に活動していた仲間だった。彼らは、自分達のオリジナルティを求めて、10年前に独立していった。夢を運んで来てくれた出会いに代わって、別れは、新生の痛みを伴ってやってきた。それからの10年の歳月は、お互いのその痛みを、忘れさせてくれるに十分だった。昔の恋人に再会するようなきめきが私の心の中で踊っていた。いつかもう一度、湯浅のポルトガルギターでファドを唄ってみたいものだと願っている私がいる。

「秀子が私の歌を歌いつづけてくれる限り、私のファドは生き続ける」そう言ってくれたアマリアは、あの世で、ポルトガルの若き歌姫達のファドを、そして日本で歌われる彼女のファドを、どんな想いで聴いているのだろうか？誰がどのような形で何処で歌おうと、唄うことと生きることへの真摯なまなざし、同時代に生きる者達への共感、そして失われた者たちへの祈りが失われぬ限り、ファドはしっかりと人の心に根を張ってゆくと信じて、これからも私のファドを気負うことなく歌いつづけてゆきたいと思う。

日々雑感

<私のリフレッシュ法>

私の足を見てよく尋ねられる。「何か運動をされていたのですか？」そんな問いに、決まってこう答えることにしている。「学生運動をちょっとばかりね」。大阪にいる頃、プールサイドのサウナに入っている私の足を見て「男の人が入っているのかと思った」と言われたこともある。なるほど、ふくらはぎは、まるで「金剛力士像」の如くたくましい。コンサートの時は決まってロングドレスだし、普段はパンツしかはかないので（実はスカートと名のつくものは、2枚しか持っていない）、その事実を知っている人は多分、プールでの仲間位だろう。

小、中、高校時代、体育が一番苦手だった。三つ目の高校に転校したてのとき、体育の授業でバスケットをした。なぜかシュートがごとごとく決まって、なんとクラス対抗試合にでなければいけないはめになり、それがいやで学校を休んだことがあった。ともかく運動会、体育祭は大嫌いだった。中学の時、マイクの前に座り、場内アナウンスを受け持った時が唯一楽しかった運動会の思い出だ。

兵庫の高校の時、野球部のマネージャーにスカウトされ、まあ、自分でプレイするわけじゃないしと、春の大会から夏の大会まで、真っ黒になって球児たちと練習試合に明け暮れたことがある。南河内にあった高校から転向してきたものだから、「河内女」を買われてのことだった。本当は東京下町のチャキチャキの江戸っ子だというのに……

そんな運動嫌いの私が、友人に誘われてジョギングを始めたのは、34歳頃だろうか。それからというもの、引越しのアパート探しの条件に、「市場に近いこと」、「南向き」、「風通しのよいこと」、「最上階の角部屋」

に「公園に近いこと」が加わった。そんなわけで、長居公園、大阪城公園をわがグラウンドとして走り回っていたこともある。

水泳を始めたのもその頃で、美容上の問題からジョギングを止めた今も、水泳だけは続けている。ファド倶楽部の会員には、そんな「裸のつきあい」を経て会員になってくれた人もいる。ジョギングも、水泳も、運動神経とは無縁、しかも、ひとりですることができるというのが魅力だ。

飲みすぎたとき、仕事が休みのとき、体がだるいとき、無力感に襲われるとき、私は、天王洲にあるプールへと自転車を走らせる。1キロを30分ほどかけて泳ぐだけだが、心も体も軽くなる。同じコースに自分より速いペースで泳ぐ人がいたりすると、以前は、持ち前の負けん気が頭をもたげ、ついオーバーペースになり、帰ってきてぐったりすることもあったが、最近は自分のペースで泳げるようになった。これも歳がなせる技だろうか。これ以上速く泳ぐ気も、距離を伸ばす気も今はもうない。ただひとつ、泳ぎ始めたら途中でやめないこと、それだけを言い聞かせながら泳いでいる。しんどかったらペースを落としてみてもいい、30分間ひたすら泳ぎつづける。ほんの少しでも前へと泳げばそれでいい。まあ、後ろに進むなんてことはないわけで、ほとんどクロールで泳ぐのだが、少しでも先の水をかくために、精一杯腕を伸ばすときの感覚がなんとも心地よい。横になったまま、自分の体重も感じないでいられるのも魅力だ。歌のことや、抱えている問題や、いろんな人の顔が浮かんで消え、消えては浮かび……。決して結論を出そうともせず、30分が過ぎてゆく。泳ぎ終わると、プールのすみで、胎児のように体を丸めて水に浮く。

長々と書きましたが、私のリフレッシュの仕方ひとつを披露させていただきました。実際、そのたくましい足と、水着姿をお見せできないのが残念ではございますが……。

ファドとのであい

FADO Clube Jornalのバックナンバーを一気に読み終わりました。春の42号で創刊10周年だったんですね。おめでとうございます。貴女のファド人生を駆け足で追いかけることで、やっと月田秀子の歌を解るための糸口を見つけたような気がします。それにしても20年近くも前から、この大阪でこんなにもドラマチックな活動をされていたのを知らず、やっと貴女の歌に出会った時にはすでに東京へ去られた後とは・・・実に残念至極です。せめてJornal片手に蕎麦の“凡愚”や数々のバー、居酒屋、月田秀子の史跡を巡り、大阪時代を偲ぶことにしましょう。いつか、ご本人とバッタリ出くわすことを期待しつつ。

私とファドとの出会いは、インターネットで何人かの方の旅行記や、現地ポルトガルのホームページでファドについて語られるのを読み、試聴したのが始まりです。それぞれの人にとってのファドとは・・・この紙面で色々語られてきましたので、それ以上のことを披瀝するだけの表現力も感性も、私には持ち合わせがありません。ただファドを聞いた瞬間、これこそ自分が求める歌だ!と思ったことには間違いありません。なにか満ち足りない哀しみや、鬱屈たる想いを鎮めてくれる、心の奥底にある、生きることへの根源的な不安に正面から向き合って、それに打ち勝つ、共存する勇気を与えてくれる、私にとってファドとはそのような力と言うことができるかもしれません。

アマリア・ロドリゲスのCD数枚を聴き始めたのが昨秋、あと入手し易いのは、Dulce PontesやMisiaなど若手のメジャーな歌手になってしまいますね。Cristina Brancoの清澄な歌声にも惹かれ、CDのコレクションを少しづつ増やしていきました。

これまで見過ごしていた月田秀子ファド倶楽部のページに気付いたのは、そんな数ヶ月前のある夜のことでした。月田秀子さんの曲に接したとたん、その歌声が自分の心の襲の隅々まで、実に素直にスッと染みこんでゆき、思い屈した気持ちが解きほぐされて行くのを感じ、これこそ私のファドだと思うようになりました。

月田さんの、水面ごしに聴くような潤いのある、柔かな暖かい声で歌われるファドには、どの現地の歌手のものとも、アマリア・ロドリゲスの歌とも、なにか違ったものを感じますね。アマリアを初めて聞いた友人の多くが、怖い音楽ね・・・との感想を持ちます。『そりゃそうだ、なにしろFADOとは“宿命”だからね』と答えるのですが、月田秀子のファドでは、悲しみを歌っても、逃れようのない運命の過酷さや、突き放された悲劇、冷たい峻拒、というより、なぜか救いと許しというものが、悲しみの中に初めから内在するのを感じとってしまう・・・と言えば、大げさでしょうか？ 風土や文化といったものと、歌手個人の声の質を結び付けて考えるのは、勿論意味のないことですが、少なくとも月田ファドは、傷つき疲れた私達の、日本人としての感性にこそ、まさにピッタリと合う、絶妙の癒しの調べに違いありません。大慈悲のファドと勝手に呼べば、ご本人は不愉快でしょうね。

いずれにせよ、月田秀子と同時代にあって、その活動を目の当たりにし、歌声を間近に聴いて慰められるのは、私たちにとって稀有の幸運と言うべきです。この幸運も、ご本人のご努力と、いろんな条件の危いバランスの上で、享受できていることを忘れてはなりません。特別な力も何もない、唯の生活者にすぎない俄ファンの私ですが、なにかできることはないか!・・・との思いに駆られています。いいものは一人孤独に楽しみたい、人には知らせたくないと言うのも本音ですが、それでは貴女を支える輪の拡がりようがありませんね。せめて私の友人知人の間だけでも、少しでも月田ファンを増やすよう心掛けましょう。ホームページのURLやテレビの録画で、“月田秀子お始めセット”をまとめて、友人に勧めるようにしています。何人かをライブに連れ出すことができれば、その時は貴女の歌で、間違いなく彼または彼女らを虜にして下さるでしょう。

では、その日まで

(感謝を込めて、水際)

FADO FESTA 2004

きうびい

大変なことが起きてしまった。昨年の「日本ファド愛好クラブ」発足から一年後、日本のファディスタ総出で催されるイベント、「FADO FESTA」が現実のものとなったのである。昨今のサッカーブームのせい、欧州選手権の開催地ポルトガルが今、注目を浴びている。ポルトガルといえば、今までせいぜいカステラとポートワインとフランシスコザビエルの印象しかなかった人が多いと思うが、昨年秋ごろからのあいつぐファディスタたちの来日や、テレビでポルトガル特集が組まれ、カーザ・ド・ファドが紹介されたりしたことで、ファドは急激に知名度をあげた。いまや日本のCDショップでは、「ファドの王子様」なるアイドルばりの（しかも男子でアマリアを歌う!!）現地のファド歌手が紹介されているほどだ。ヨーロッパでじわじわと広がっていたファド旋風、ついに日本上陸。

日本でファドを歌い続けて20余年の月田秀子にとって、突如到来したこのブームはどのように映っているのだろうか。子供を育てたことはないが、あえてたとえれば手塩にかけて育てた娘がいきなり色気づいてきたような戸惑いと寂しさとうれしさのようなもの？ その気持ちはもちろん月田秀子本人にしかわからないだろうから、私があればこれ考えるのはここまでとしよう。

ひとくくりにはファディスタとまとめてしまったが、今回出演したアーティストにはそれぞれ違うバックグラウンドがある。シャンソン畑で活躍する歌手、ポップス・ゴスペルで活躍する歌手、そしてファドひとすじの歌手。とらえかたはそれぞれ違えども、ファドを歌っているとき、彼女たちはやっぱりファディスタ以外の何者でもなくなるのだ。そして思わせる、「ファドっていった

い何なの?」「何がファドなの?」「どれがファドなの?」・・・多分どれもファドなのだ。どんなバックがつこうと、どんなアレンジをしようと、私には「あれはファドじゃない」などと批評する気はない。彼女たちにとっては、それぞれが自分のファドなのだから。そう思うしかない。それぞれの思いに、敬意を表したい。

ただ、ひとつだけ言えることは、曲調がどんなものであれ、ファドになんともいえない憂いを感じさせた歌手は、月田秀子一人だったということだ。最良目ではなく、それは当然のこと。今回「今夜はファドを歌います」と言えなかった唯一の歌手なのだから。ファドひとすじに賭けることの重みと思いは、ほかの出演者と比べること自体がおかしい。月田秀子はいつものことを、いつものスタイルでやったまでである。ヘンな言い方になるが、20年ひたすら一人でファドフェスタ(?)だった彼女は、一仕事終えて、今さぞ複雑な胸中だろうと思う。

来年も「FADO FESTA」はあるのか。わからない。しかし、私個人としては、あったら出演してほしいと思う。その質の賛否両論はあると思うが、月田秀子にとってファドブームは決してマイナスにはならないと思う。今までどおり、何ものにも属することなくやっていくのが彼女にとってベストなのであれば、それでいい。新しくファドを聴く人たちに、ファドに興味のある人に対して、今までどおりやっていけばいい。ひたすらファドで積み重ねた月田秀子の20年は、ほかの誰もさかのぼって持つことのできない日本の貴重な宝である。そしてその年月は、彼女がステージで歌ってこそ、感じさせられるものなのだ。

サッカーファンを本当に自認する者なら、今なら遙かポルトガルを想って気もそぞろ、仕事のことなどそっちのけでTV画面に観入っていたい(もちろん余裕があれば現地で観戦したい)サッカーの祭典がポルトガルで始まっている。

通称「ユーロ」。「ユーロ」と言ったら政治でも経済用語でもなく唯一この意味しかない。四年に一度の、ちょうどワールドカップの中間年に開催される《欧州サッカー選手権》のことである。

大会の会場はリスボンとポルト。ここに欧州16ヶ国を代表するチームが集結して、ナンバー1を目指して男たちの熱い闘いが展開されている。

僕は30有余年来の筋金入りのフランス鼻だから、ひたすらジダンの神技が顕現することを祈るのみなのだが、それにしても開幕戦でいきなり開催国ポルトガルがギリシャに敗れてしまったのはショックだった。

鯛焼く匂いを嗅ぎ廻り、土臭い赤ワインとファドを求め、蒼い月夜に黒猫と共にリスボンの路地裏を散策(徘徊ではない)していた者にとって、ポルトガルはフランスの次に愛すべき国であることは間違いない。いや、国民気質では最も愛しく親しい国、それがポルトガルなのである。

マノエル・ド・オリヴェイラという、すでに95歳を過ぎたポルトガル映画(のみならず世界映画)の大巨匠の驚異的(!)な最新作『永遠(とわ)の語らい』を観ていたら、ポルトガルを破ったあの憎っくきギリシャの(笑)大女優イレーネ・パパスが、まるで風のささやきのように、ゆるやかにのびやかに歌い続けるシーンが長廻しで出てきた。

その直前までの、フランス、イタリア、ギリシャの女性たちとポーランド系米国男性の多言語会話(それぞれが母国語を語っているのに食卓での会話が成立してしまう!)シーンは、世界映画史上これまでに例がないほど見事な映像演出がほどこされていて舌を巻いたものだが(このシーンを解説するだけで90分の映画講座が持てる)、それはともかく、彼女の軽やかな歌のシーンには心動かされ胸熱くなってしまう。歌は人の心と心をつないで吹きゆく風である、なんて極めて陳腐な言葉が平然と頭をよぎるほ

どに。

そう、オリヴェイラの映画を観ているといつも月田さんを想う。ああ月田さんのファドもこんな雰囲気聴いていたい、聴き続けていたいと思ってしまう。それは何故なのか?

《ユーロ2004》と同時期に日本・東京/草月ホールで行われた《ファド・フェスタ2004》。こちら内容的には素晴らしい祭典だった。

アマリア・ロドリゲスの来日公演に湧いていた時代をファド第1期とすれば、五木寛之さんの長編小説『大人の時間』や短篇『暗いはしけ』で文学畑にファドの種が撒かれ、月田さんたち先駆者が黙々と耕すように歌ってきた第2期を経て、いよいよ新世代を含めての第3期が始まった象徴的イヴェントだったと言えようか。

ところで会場の草月ホールは音響機器が効きすぎて、それに甘えたように本来のファドの“歌ごころ”を感わされた方もいらしたようだ。強く声を張り上げるだけが“サウダーデ”の情感を吐露するものではない。むしろ“ピアニッシモ”の強く激しい想いを声/身体でいかに表現できるか、ここにファディスタの力量が問われるのではあるまいか。

すっかり脱力した自然体のイレーネの歌声、アマリアの息吹。握るのではなく、祈るように、あるいは懇願するように合掌のポーズで手にマイクをはさみ、何度も何度も、しかもサビの部分であえてマイクを遠ざけるようにして自分の息づかい・生の声を引き出して歌おうとする月田さんの姿に、僕は他のファディスタには全く感じられない何かしら不可思議なほど強い力とおしさを感じて聴き入っていた。同時にまた、鬼気迫るものすら感じていたのだった。それはリスボンの酒場で歌うファディスタにつながる優しさであり、暗さでもあり、したたかさなのだろう。そこにこそファド本来の心根があるのではないか。

つまり、月田秀子に機械仕掛けの“暗愁(サウダーデ)”は似合わない。[と結ぶと、ホール否定論と誤解されそうだが、それを承知で突然このまま終わりにしておく。さながらオリヴェイラのあの作品のラストのように。]

fados canções

バイロネグロの子

作詞作曲 ジョゼ アフォンソ
訳詞 カウド ヴェルデ

ごらん お陽さまが昇ってくる
お行き 海を見に
子どもらよ 走って行け
お陽さまのお出ましだ

貧しさの中に 生を享けた子よ
お化けを 恐がる子も平気な子よ
いつかは必ず歌おうよ
この歌を

裸同然で 生きていく子よ
生まれたときは 誰もみな裸だ
うつぶわいていないで
光を見においで

ごらん お陽さまが昇ってくる
お行き 海を見に
子どもらよ 走って行け
お陽さまのお出ましだ

粗末な身なりの子よ
新しい日は あそこから始まる
歌を歌える者にだけ
新しい日はやってくる

もし歌う喜びにはじけて
大地もほほほ笑い返すなら
誰もが好きになるよ
君のことを

バイロ ネグロ
バイロ ネグロ
日々の糧も
安らぎもないところ

余程 いやでなければ
みんなが望むなら
いつかは歌を覚えようよ
何があろうと

MENINO DO BAIRRO NEGRO

José Afonso

Olha o sol que vai nascendo,
Anda ver o mar.
Os meninos vão correndo
Ver o sol chegar

Menino pobre teu lar
Quería ou não quería o papão
Há-de um dia cantar
Esta canção

Menino sem condição
Irmão de todos os nús
Tira os olhos do chão,
Vem ver a luz.

Olha o sol que vai nascendo
Anda ver o mar
Os meninos vão correndo
Ver o sol chegar

Menino do mal trajar
Um novo dia lá vem
Só quem souber cantar
Virá também

Se até dá gosto cantar
Se toda a terra sorri
Quem te não há-de amar
Menino a ti?

Negro, Bairro negro,
Bairro negro
Onde não há pão
Não há sossego

Se não é fúria a razão
Se toda a gente quizer
Um dia há-de aprender
Haja o que houver

作者のジョゼ・アフォンソ(1929~1987)について

彼は、半世紀ほど続いたポルトガルの軍事独裁政権の下、何度も投獄されながらギターを抱え唄いながら、戦いつづけた。彼の作る歌は、虐げられた者、弱者へのやさしいまなざしにあふれている。1974年4月25日、彼の「GRANDOLA」という歌がラジオで流れるのを合図に、各地の若手将校達を中心に反政府勢力が決起、「カーネーション革命」が起こり、長い間の暗黒政治にピリオドが打たれた。投獄による病で1987年2月24日逝去。

♪月田は、いつか弾き語りでのこの歌を歌いたいと思っています。♪

informação

●月田秀子ファド倶楽部会員限定CD「月田秀子コンサート2004」

在庫あとわずかです。ご希望の方は、お早めにお申し込みください。

●ラティーナ8月号に、マリオンネットの湯浅隆氏と月田の対談が載ります。入手困難な場合は、ファド倶楽部までご一報ください。

●表通りの異国情緒 路地裏のノスタルジー「マカオ歴史散歩」(菊間潤吾著・新潮社とんぼの本) 発売中。

大航海時代以来のポルトガルと、古きよき中国の血脈が見事に溶け合ったマカオの素顔を覗き見ることができます。

cartas

<月田秀子ファド倶楽部ホームページ掲示板より>

4月3日名古屋 花祭りファドコンサートから 投稿者：ミズタニ

こんにちは。名古屋在住の水谷といいます。10年ほど前、ライブハウスで月田さんのファドを聴いて、思い入れたあげく名古屋でコンサートを催すこと1996年の初回以来5回目です。1回~4回までは300人ほどの規模のホールで、今回はお寺の本堂で開催しました。160人満席で、<曼陀羅の棧橋>というタイトルの草月流の花とのコラボレーションです。いつもはピアなどにも出して宣伝するのですが、今回は、会場が小さいので今まで来てくださった方々へのDMとHPだけ、電話予約で当日精算というやり方で当日欠席は0名でした。心から待っていて来てくださった方々と、夢心地のひと時を過ごしました。溢れる花々、哀切なファドの調べ、ここに集った160余名のひとびとの熱い思いが、ひとつになった春の宵でした。その模様は、以下のHPでご覧になれます。

<http://www13.plala.or.jp/byakuzoh/>

ライブの様子を写真や言葉で伝えることは至難だと、つくづく思います。ライブ中の写真撮影は聴いておられる方への妨げになるので、掲載のものはリハーサル中のものです。だから臨場感の違いがあって、それが納得できず、カットカットになってしまいました。

さて、参加してくださった方々からも感想をたくさんいただきましたが、私が照れるのは筋違いなのですが、なんだか恥ずかしくて載せられません。でも耐えて(やはり変な性格ですね。すみません)紹介します。例えば彼、名古屋での5回のコンサートに、自分が座長である会議を抜け出してでも、すべて来てくださっている人ですが、「今回が今までで最高だった。始めのころは情熱が恐ろしくくらい溢れていて圧倒されたが、今回は内面から滲み出るような情感に引き込まれた。トークにも内面的な深さを感じた。」と心から飲んでくださっていました。「ますますきれいになったでしょう」と問い返すと、女の容姿のことを評論するにはあまりにもテレ屋過ぎる彼は、独特のテレ笑いをするばかりでした。私は月田さんを知って10年ぐらになります。今回の月田さんは、今までの中でいちばんに美しく感じました。歌も、トークも、すべて、味わい深くすばらしかったと私は思います。こんなことは、ご当人には一言も言えなかったのですが、なりゆきで、告ってしまいました。

コンサートの模様を少しでもお伝えしたいのですが・・・言葉が及ばないのが残念です。

「4時です 上方倶楽部」スタジオ参加 投稿者：ぼち

当日のスタジオは、1月の「公園通り」に比べて5分の1もない、こじんまりした広さで、見学者も20数名でした。それだけに間近に見ることができました。野上さん、上川さんも客席のうしろでスタンバイという状態です。

<編集後記>

ファドの若手歌手クリスティーナ・ブランコのコンサートに行ってきた。補助椅子が出るほどの盛況。こんなにも多くのファドファンがいるのだと、宣伝力の大きさにうちのめされたのか、4日間の関西でのライブの疲れからか、体調を崩し、起き上がれない日が続く。何とかキーボードの前に座り、これを書いて明日は入稿。(月田)

雰囲気は大阪らしく、いわゆるNHKくささを出さないようにという意図は分かるものの、肝心のファドや月田さんについて、ディレクターや司会者の情報集めに疑問が残ります。

今回のようなスタジオで月田様の歌を聴くのは、ライブハウスとは違った感じで、楽しむことができます。しかも無料でした。

ただ、テレビ画面のようなテロップやクローズアップが見られないのは残念でした。

こんどテレビの公開番組がある時には、ファンのみなさま、大勢で申し込みましょう!

昨夜のショー、素晴らしかった! 投稿者：みわ

昨夜、青山で月田さん以外の方のファドを初めて聞きましたが、いやあ、皆さん素晴らしかったです!!ビックリ!でもその中でもやはり、月田さんが歌われると空気が変わる気がしました。

勿論、ト리는月田さんでしたしね。でも皆さんとても个性的で、やはりその道のプロは違いますね。プロフェッショナルを充分堪能でき、とっっても勉強になりました!月田さん、お疲れ様でした!そして、いつもながら感動を有難うございます!どうぞお体は充分ご自愛くださいね。適度にストレス発散もお忘れなく!では、また。

Re:昨夜のショー、素晴らしかった! 投稿者：P

個性あふれるステージでしたね。月田さんが歌うと確かに終わってざわざわ・・・あれが妙に印象的でした。それにしても月田さんスタイルいいですねえ。毎度のことながら感動します。

ブラボー ファディスタ 投稿者：谷川

ファドと言えば月田さん、という世界でしたので、覗き見気分草月ホールに出かけたのですが、いい意味で期待を裏切られて、素敵な一夜でした。

ファドを唄うには、時間の積み重ねが必要なかな、と思わせるファディスタ

10年後、どんなファドを唄っているのかな、と思わせるファディスタ
“東の月田”ならば“西のXX”かな、と思わせるファディスタ

そんな中での月田さんの存在は、さすがに別世界の観があり、改めて月田ファドの奥深さに感銘させられました。

時々、他のファディスタを聞いて、月田ファドを聞く、これからの私のファドを10倍楽しむ方法として実行しようかな、と思っています。

月田秀子ファド倶楽部ホームページ

<http://www.fado.jp/>

- 月田秀子ファド倶楽部ジャーナル 第41号
- 2004年7月1日発行(季刊:年4回発行)
- 編集・発行「月田秀子ファド倶楽部」事務局
- 〒108-0075 東京都港区港南1-8-27 日新ビル1406号
- TEL&FAX 03-3458-9806

＜月田秀子のスケジュール＞

7月21日(水)	東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」	要予約・問合せ：tel/03-5276-2432
	ステージ：①9：00 ②10：00 ③11：00 (入れ替えなし)	チャージ：2,500円
22日(木)	同上	
23日(金)	東京・赤坂「ノヴェンバー・イレブンス」	予約・問合せ：tel/03-3588-8104
	開場：6：00	
	ステージ：①7：30 ②9：00 (入れ替えなし)	チャージ：3,675円 (税込み)
24日(土)	長野「北野文芸座」	申し込み・問合せ：tel/026-233-3111
	♪昼公演です。東京から日帰りも可です。	
	開場：1：30 開演：200	チケット：5,000円 (全席指定)
25日(日)	長野・小海「ヤルヴィー・ホール」	問合せ：tel/0267-92-4391
	♪松原湖を見下ろす丘の上の小さなホールです。	
	開場：6：30 開演：7：00	チケット：2000円
26日(月)	長野・松本「四柱神社・参集殿」	問合せ：tel/0263-34-8969 (宮坂)
	開場：6：00 開演：6：30	入場料：2500円
28日(水)	京都・四条河原町「巴里野郎」	予約・問合せ：tel/075-361-3535
	ステージ：①8：00 ②9：00 ③10：00	チャージ：3,500円
29日(木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」	予約・問合せ：tel/06-6212-2870
	ステージ：8：00から3回 (入れ替えなし)	チャージ：2,800円
30日(金)	大阪・南方「三裕の館」	予約・問合せ：tel/06-6304-1745
	ステージ：①8：00 ②9：00	ワイン・オードブル付：5,000円
8月18日(水)	東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」	要予約・問合せ：tel/03-5276-2432
19日(木)	同上	
25日(水)	京都・四条河原町「巴里野郎」	予約・問合せ：tel/075-361-3535
26日(木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」	予約・問合せ：tel/06-6212-2870
27日(金)	大阪・南方「三裕の館」	予約・問合せ：tel/06-6304-1745
9月15日(水)	東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」	要予約・問合せ：tel/03-5276-2432
16日(木)	東京・渋谷「マヌエル」	予約・問合せ：tel/03-5738-0125
	♪渋谷店でのディナーショーです。	
	開場：6時 ライブ：8時30分より	ディナー&ライブチャージ：6,000円
22日(水)	京都・四条河原町「巴里野郎」	予約・問合せ：tel/075-361-3535
23日(木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」	要予約・問合せ：tel/06-6212-2870
	♪祝日の為、月田秀子ファド倶楽部総会をかねての特別ライブです。一般の方のご入場もOKです！	
	開場：2：00 開演：2：30 会費：5,000円	(ワイン飲み放題・パン・チーズ付き)
24日(金)	大阪・南方「三裕の館」	予約・問合せ：tel/06-6304-1745

＜お 願 い＞

東京に来て2年になります。東京もしくは近郊で、ファドライブのできる場所もしくはお店を探しています。定員30名から50名位までのファドライブに合いそうなお店がありましたら、ご紹介ください。事務局までお電話ください。少しずつファドを定着させていきたいと思っています。みなさまのご協力をお願いいたします。